

令和6年度山梨県グリーフケア従事者研修会の様子 ～周産期に子どもを亡くした両親の支援～

昨年度に引き続き、今年度も当研修会を開催いたしました。

昨年度の研修会后、病院と地域の連携方法や実際の声かけの仕方について学びたい等の意見もあったため、今年度はこれらの声を反映し、グループワークを取り入れより実践的な内容としました。

当日は、医師、看護師、助産師、心理師、保健師など総勢 56 名が参加しました。

当日の様子

【日時】令和 6 年 11 月 18 日(月) 午後 5 時 45 分～7 時 30 分

【場所】山梨県立中央病院 多目的ホール

【内容】

■講演「周産期に子どもを亡くした両親の支援」 講師：湘南鎌倉医療大学 蛭田 明子 氏

- ・流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした両親がどういった心情になるのか、時間軸でみた際の心理的变化について講義をしていただきました。後半は、事例を用いながら具体的な支援方法について説明があり、より実践的な内容となりました。

支援のポイント

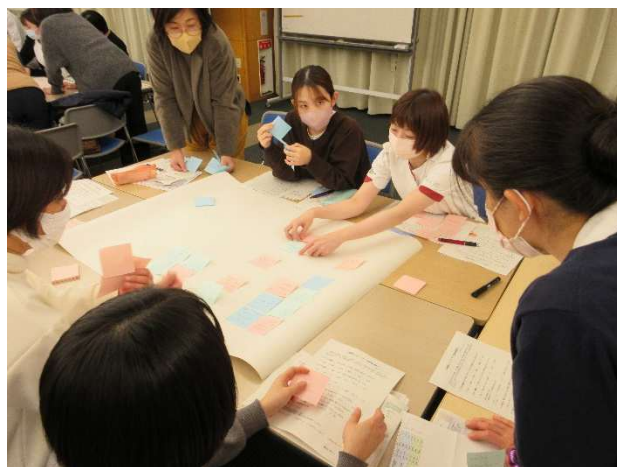
- ・死別を経験して間もない方は、一時的に回復志向(悲嘆から気を紛らわす等)でも、時間がたつと喪失傾向に戻ってしまう可能性があるため、支援者は継続的に見守る必要がある。
- ・当事者から言われた「大丈夫」には、実は支援者へ遠慮をしていたり、自分は大丈夫と言い聞かせていたり・・・等、同じ「大丈夫」でも、その言葉の背景は様々である。そのため、相手の文脈や言動に合わせて関わりを調整する必要がある。
- ・電話訪問を断られても、支援の求めるタイミングや希望する支援の方法は人それぞれであるため、支援の扉を閉じないことが大事。



■グループワーク

講演後は、グループワークを実施し参加者自身が支援方法を考える場を設けました。

グループは職種が偏らないように編成し、多職種で検討することでお互いの役割も把握できるようにしました。



グループワークで話し合われたこと

テーマ：「どうしたら、突然の電話で傷つくことがないようにできるか」

「どうしたら、退院後必要な時に必要なサポートを得やすくなるか」

(医療機関の役割)

- ・病院から自治体への情報提供を行い、地域の保健師や行政機関と連携して、母親への支援をスムーズに行う。
- ・流産や死産の情報は迅速かつ適切に地域と共有し、必要なフォローを実施する。
- ・流産や死産を経験した母親に対し、退院時や手続き時に必要なサポート情報(相談窓口、グリーフケア、地域の保健師情報など)を提供する。

(自治体の役割)

- ・妊娠時や母子手帳の配布時にグリーフケアの対応も可能であることを案内する
- ・継続的な支援ができるよう、定期的に状況を確認し、母親が安心してサポートを求められる環境を作る。
- ・戸籍課と子育て支援課が連携し、情報提供し合う。
- ・県や市町村の Web ページに相談窓口を掲載する。

(すべての従事者の役割)

- ・母親の気持ちに寄り添いながら、話を聴く。
- ・トーンや言葉の選び方、話すタイミングに配慮し、無理に話をさせないようにする。
- ・電話や面談では、まずは相手の体調や状況を確認し、支援が必要かどうかを把握する。
- ・サポートが不要と感じる場合でも、いつでも連絡できることを伝え、母親や家族が孤立しないようにする。

参加者の声 (事後アンケートより)

「市との連携を意識するようになった」

「病院との連携が必要だと感じる。また地域の保健師に連絡していいか本人の了解があれば支援しやすい」

「自分のケアに自信がもてる」

「死産・流産を体験された方への関わり方について、とても参考になっています」

地域におけるグリーフケア相談窓口について

山梨県では、今年度、地域におけるグリーフケア相談窓口一覧を作成しました。

山梨県ホームページに掲載しておりますので、ご活用ください。

URL: <https://www.pref.yamanashi.jp/kosodate/griefcare.html>

トップ>組織案内>子育て政策課>グリーフケア推進に向けた取組

お問い合わせ先

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内 1-6-1

山梨県庁子育て支援局子育て政策課 母子保健担当

TEL 055-223-1425 FAX 055-223-1475